

「競争のない運動会」を考えるためにⅡ

島田博司

School Sports Festivals II: The Present Situation and Possible Future

SHIMADA Hiroshi

Abstract: School sports festivals began with “*Kaigun-hei-gakuryo*” in 1874. They were highly competitive under the influence of the Navy. The main events were footraces, triple jump, high jump, and so on.

After World War II, school sports festivals changed into more simple competitions. The main events were skipping races, centipede races, dances, and so on. After the Tokyo Olympic Games, mass calisthenics were in vogue.

In the '69-'70, the main principle of school sports festivals changed from competition to recreation and enjoyment. Especially the Kansai district showed a marked trend toward “*Byodo-undokai*”, compared with Kanto practice. Recently school sports festivals aim at fun and safety first.

This Research Note tries to report on the present situation and possible future of school sports festivals seen from the perspective of college students. Many opinions support the idea of giving thoughtful consideration to make school sports festivals more competitive.

Key Words: School sports festivals, Competition, Recreation and enjoyment, Safety first

I. はじめに

1970年代、「競争のない運動会」が登場する。関西発の「平等運動会」は、賛否両論を巻き起こしながら、約10年間にわたって全国を席卷していく。とはいえ、この関西流は定着せず、東西で運営に違いもでてきている（吉田誠一「[[関西おもしろ文化考] 運動会」『読売新聞』2002年10月16日夕刊、大阪本社版）。

「いい運動会とはどのようなものか」のヒントを得るために、2003年6月、甲南女子大学の学生148名を対象にアンケート調査を実施した¹⁾。回収数は、131名（88.5%）である。

そこで、調査項目のひとつとして、「徒競走で順位をつけなかったり、廃止する動きについてどう考えるか」を自由記述にて尋ねた。その結果を分類すると、「反対」104名（79.4%）、「条件つき反対」13名（9.9%）、「賛成」6名（4.6%）、「どちらともいえない」5

名（3.8%）、「やりたい人だけで」3名（2.3%）となった（島田博司編『運動会—〈自分試し〉の物語』甲南女子大学、2004年）。

その際、本に収録できなかった自由記述部分の全容を知りたいという声が出た。これを受け、本稿は、それらを資料として紹介し、これからの運動会のあり方を具体的に考えるヒントを提供することを目的としている²⁾。

II. 自由記述一覧

以下、自由記述を上記の5分類に従って、紹介する。

1. 反対

*私は、普段目立たない子やぱっとしない子が自分の特技を見つけたり、互いに競いあうからこそおもしろみがでてくると思うし、互いの競争心を刺激することにもつながったりと、新たな自分を発見する大

切な場所なので廃止するべきではないと考えます。

- * 私自身、小中高と共学で毎年運動会に参加できたんですけど、一番運動会でやっていて盛りあがるのは競いあう種目でした。私自身、やりたいという気持ちが大きかったため、高校でひとり2種目しかでられないと聞いたときはショックでした。でたい子はださしてくれたら気がすむのに。なんかやり残した気持ちでいっぱいです。順位などはつけなければいいとかいう問題じゃないと思う。
- * 運動会ってそういうものだと思う。個性の尊重とかそういうものもあるけど、私は運動が好きだったから徒競走も好きだった。運動の嫌いな子の気持ちも少しはわかるけど、勝負をするからおもしろいし、盛りあがるんだろうし、別にビリになったからといってその子自身がダメなわけじゃない。勝った、負けた、活躍したっていろいろあるから楽しいし、いい思い出になるんじゃないかなあ。
- * 運動会が盛りあがるのって結局勝ち負けがあるからだろうし、順位をつけることを抜きにしまったらつまらないと思う。負けず嫌いの私にとっては、勝負性がないとはっきりいってやる気がでない。「どうせ勝ち負けはないのだから、適当に走っておいたらいいやん」ってはじめから投げだして、やってみないうちから「どうせいい」とか思ってしまう子が増えそうな気が…。
- * あえて個人的な差をつけることによってがんばる子もいると思うし、負けて傷つくということも精神的に強くなるためには必要であると思う。「傷つく子のために」となにもかも廃止をしていては、楽しみにしている子はどうしたらいいでしょうか。
- * 反対。学校にいつている間に、結果ではなく過程を大切にすることを学ばなければならない。努力することやみんなで支えあうことの大切さをもっとも効率よく吸収できる場が運動会、体育大会だと思う。がんばることは格好悪いことではないと知るべき。個人的には、人間全員が熱血であってほしいと思っている。
- * 今まで通り続けたらいいと思う。私は足が遅くて、徒競走が本当に嫌いだった。遅いってのが恥ずかしかったけど、なくなるのは反対。運動会じゃない気がする。それに、いつも徒競走で4、5、6位だったけど、1回だけ障害物リレーで2位になったことがある。今でも覚えている。本当にうれしかった。だれにでもそんな経験があると思うから、なくすのはよくないと思う。

* 順位は、つけた方がよいと思います。なぜなら、順位をつけないと上位をねらう争いがなくなり、「何番でもいいや」ということになり、自分の成長を妨げると思うから。

* 徒競走に順位をつけなかったら、まったくやる気がでない。みんな、いい加減になると思う。運動会自体も盛りあがらないと思う。確かに、リレーでビリになったりしたら遅い人のせいになったりするけど、なにかいわれるのも正直2、3日だけです。みんなから応援の声が聞こえるのもうれしい。

* 運動会としておもしろみがなくなるから、なくさない方がよい。

* 私は、徒競走を玉入れや綱引きよりも運動会のなかでのメインイベントだと思っていたので、廃止してほしくない。なによりも走る前の緊張感が大好きだったし、走った後は順位に関係なくスカッとした。子どもってそこまで順位にこだわるのでしょうか？私のころは、予め50m走の記録をもとに同じくらいの速さの子がいっしょに走るようになっていたので、順位についてはとくににも考えなかった。

* 個人個人で能力が違って当たり前だし、運動会は楽しいものなのだから、子どもが傷つくから廃止するなんて考えたこともなかった。順位をつけないと、やる気もでないし、おもしろくない。

* 順位をつけることで傷つくこともあるかもしれないが、がんばろうという気持ちもでるので、順位がある方がよい。

* 徒競走の廃止は、よくないと思う。なぜなら、子どもの「負けたら悔しい」とか、「絶対に勝つ」といった競争心がなくなってしまうから。悔しい思いをする方が、自分自身が強くなっていいと思う。

* 私は運動が好きなので（走るのも得意なので）、順位をつけられてもあまり傷つかなかった。むしろ順位をつけてほしい方だったので、順位をつけないと徒競走を廃止するということは、私にとっては考えられないことです。運動会の目玉がなくなったらおもしろくないし、そもそも「運動会」じゃなくなると思います。

* 子どもが傷つくという理由から徒競走や順位づけを廃止するというのは間違っていると思う。だれでも傷ついたことやイヤなことから学びとるものがたくさんあると思う。傷つくことを小学校時代に避けて通ってしまったら、情緒や感受性など内面的成長の機会が減ると思う。

* 「手をつないでいっしょに『はい、ゴール～』はや

めて、順位をつければいい。イヤなら死ぬ気でサボれ…」なんて、無理ですよネ。傷つくとかは本人の問題なので、そのぐらいでガタガタいうなどいい。かくいう私は、徒競走だのなんだのには死んでもでたくないのですが。我慢して、そのときしか経験できないこと学ばばいい。一度は、経験しておくもんだ。

- * 数字にださなだけで、実際に順位はつく。だから、順位をつけないのは無意味だと思う。イヤイヤながらも経験してきた立場としては、廃止する必要はないと思う。なんでもできる人なんて、そういるもんじゃないし。
- * 徒競走の順位を廃止することはおかしいと思う。それでは、勉強やテストでも個人的な差がでることはよくないことになってしまうと思う。
- * 社会にいれば、もっともっと競争も激しく、順位づけも厳しい。私は、運動会で協力しあうことや勝ち負けを経験することは将来社会にでるときの準備だと思います。こういう機会をなくしてしまうと、みかけは大人だけけど中身は子ども、ただ年齢だけが大人という人が増えて、社会が成り立っていかなくなり、潰れる原因のひとつになると思う。
- * 私は、そうは思いません。確かに私は、運動が得意だった方だけれど、徒競走ではいつも私より速い子といっしょのレースだったりしてイヤでした。でも、その子に勝つためにがんばって練習したりしました。勉強するのが好きでなかった私は、運動会などの学校行事がとても楽しみでした。
- * ビリになって傷つくのは、運動だけの問題ではありません。普段の生活では、むしろ成績がビリの方を気にしている子の方が多いと思います。勉強が得意な子、運動が得意な子がそれぞれいるわけなのだから、徒競走を廃止すれば順位で傷つく子どもがいなくなるわけじゃないと思います。「個性を大事に」というのなら、子どもが輝ける機会をなくしてはいけないと思います。
- * 確かに、負けた子が傷つくということは注意すべきことで、まったく考えないというわけにはいかないでしょう。だからといって、傷つかないように先手を打つこと、たとえば徒競走をやめてしまうことが本当にその子にとっていいことだとは思えません。むしろ、ありのままの自分を知って、受け入れ、少々なことでは傷つかない子になっていくための第一歩じゃないかと思えます。だれでも苦手なことはあるし、どうしたって傷つくことはあるけれど、そ

の上で「それでいいんだ」「それが自分なんだ」と思えるようになっていけたらいいと思います。

- * あまりよくないと思います。やはりそれでは、やる気が減ってしまうと思うからです。
- * 悔しい気持ちを味わうことによって、決意が固まったり、がんばろうと思ったり、努力する気持ちが芽生えるのだから、順位は絶対に必要だと思う。1番になったときの気持ちって相当うれしいもん。高1のとき、実力テストで学年1番になり、最高にうれしかった。私が1番になると、私だけでなく親、担任、友だちも喜んでくれた。逆に、ビリのときは励ましてくれた。もともと、みんな個人的な違いや差があるのだから、運動会だけ順位をなくしても意味がない。
- * 私は走るのが遅いので、本当にリレーが嫌いでした。ビリになるのがイヤで、家に帰ったら速く走れるように練習をしました。少しだけ速く走れるようになったときは、本当にうれしかったです。徒競走は運動会のメイン競技だし、ビリになって傷つき、練習して速くなったときの喜びもあるので、廃止には反対です。
- * 廃止しない方がよい。私は、負けたことで、「コノヤロー」とか「速くなりたい」という気持ちが出てきて、がんばって走るようになり、速くなった。そういう気持ちをもつことは大切だ。
- * 「子どもが傷つく」って、大人が勝手に決めつけているところがあると思う。ビリになった子全員が傷ついているわけがない。廃止するなんて大袈裟だ。まわりがそういえばいほど、逆に子どもは傷つくと思う。
- * 私は運動が大好きで、とくにリレーは好きな競技のひとつだったので、廃止する動きには共感できません。しかし、これは私の言い分なので、運動が苦手な子からみれば、自分勝手といわれるかもしれません。でも、やはり順位があるからこそ楽しいのだと思う。負けたら負けたでお互いよくがんばったと慰めあい、勝ったら勝ったでお互いに称えあう。そこでまた、友だちの仲が深まり、運動会というものが印象深く残るのだと思う。だから、私は廃止には賛成できません。
- * 私自身はビリになった経験がないので、傷つくという意味がよくわかりません。傷つきたくないために努力（たとえば、朝練とか）をして、それでも負けた場合、私は傷つくというより自分をがんばったと誉めてあげたいし、ビリになることも悪いことでは

ないと思う。廃止するのは、ビリが悪いこと、傷つくこととっているようなもので、おかしいと思う。

- * 私は、順位がついてもいいと思います。負ける子どもが傷つくというけれど、そこまでみんな気にしないと思うし、1回くらいで弱気になっても…と思います。負けても次のチャンスがあるし、次がんばろうという目標もみえてきます。それに、廃止してしまって、ダンスや他の順位のつかない、みんないっしょの種目ばかりだと、運動会がつまらなくなると思います。
- * 本当にそういう子がいるのか、アンケートをとってみたいと思う。1, 2, 3位をとれるとけっこううれしいし、今の子は順位なんてあまり気にしないんじゃないかなって思う。順位をつけることがどうというのではなく、その子とまわりの関係になにかあると思う。
- * 私は、反対です。私の兄は太っていて、走るのも遅くて、順位はいつも最後の方やビリでしたが、その分クラスの人や先生たちに応援してもらっていたし、「傷つく」とか「イヤ」というのを聞いたことはないです。それと、私は勉強がぜんぜんできない分、運動する方で目立とうと思っていたので、運動会は大好きでした。走るのが遅くても、みんなではないけれど、1位になりたいって思って練習をする子もいるので、順位をつけることはいいことだと思います。
- * 「競争があるからみんな盛りあがる!」。それが運動会だと思います。勉強が苦手な人のアピールの場なのに、それをなくそうとしているのは反対です。やっている子どもたちも楽しくなくなるし、運動会なんておもしろくないからイヤっていう子も増えてくるでしょう。足が遅い子は、別にビリになることを恐れず、人間、苦手なものはひとつふたつあるのだから前向きに考えていけば…と思いますが、そう思うのは自分が運動好きだからいえることかもしれません。
- * 廃止すべきじゃないと思います。理由は、ある程度競争心やプレッシャーに打ち勝つ力をつけるべきだと思うからです。だれだって、1番になりたいとか、走るのが苦手だからその姿をみられたくないというプレッシャーがあると思います。でも、それを乗り越えることによって精神的にひとつ強くなれると思います。廃止すると、弱い子どもがたくさんでてる気がします。社会にでて、負けたら悔しいと

思いががんばっていく人が少なくなると、きつというんな意味で成長していかないと思います。

- * やっぱりリレーなどの徒競走で順位がないと盛りあがらないような気がするし、やる気も減ると思います。私は走るのが嫌いだけれど、思い出をつくるなら必要だと考えます。
- * 私は走りがあまり速くなかったから、あまり徒競走は好きではありませんでした。しかし、走りが苦手な分、こんな得意なことがある、人には負けられないこんなことがあるというように、別のことで自信がもてたり、新たな面を見つけることができたりということがありました。人それぞれ得意不得意があって当然。個人的な差があって当然。走りだけが得意の子もいるのだから、順位廃止はどうかと思います。負けると傷つくから順位を廃止するようなことばかりしていたら、つらいことに耐える心の強さなどの発達や成長を妨げているような気がします。
- * よくないと思います。みんな同じでなにか楽しいのかわからないし、足が速い子の個性を完璧に無視しているようにも思います。
- * 私も走るのが好きではなかったから、小中のころはイヤで仕方なかったけど、今思えば一番盛りあがる種目のひとつだし、だれでも苦手なものはあることを教えるべきだと思います。だから、廃止する必要はないと思います。
- * 「みんないっしょ」といってちんたら走っているのは、みていてみともない。結果がどうであれ、精一杯の結果なら、すがすがしい気持ちになるはずである。競争心を促すためにも、やはり順位はつけるべき。
- * 私は、順位をつけた方がいいと思います。もし最下位になったなら、練習をすれば速くなると思うし、なによりも負ける悔しさを体験することによって、大人になって挫折したときにもすぐに立ち直ることができると思います。
- * スポーツに順位があるからこそ子どもたちは一生懸命になり、悔しい思いをしたり、1位になった達成感や満足感を味わうことができるのだと思う。
- * 成績の面では順位をつけるのに、徒競走などでは順位をつけないというのはおかしいと思う。
- * 確かに、大勢の前でビリになるのは恥ずかしいし、私だったら最後に拍手されたってぜんぜんうれしくないと思います。だからといって、ビリをなくしてしまえというのは強引だと思います。人間には競争意識というものが備わっていて、敗北感や勝利の達

成感を味わうことは人が成長していく上で大事な要素となると思います。子どもが傷つくから勝敗はつけるべきではないだなんて、私からしたらバカバカしいとしか思えません。負けて慰めあったり、次はがんばろうと練習したり、逆に勝ったら喜びをわかちあうことで団結力も強まるし、なにより勝つ快感を知ることができます。遅かれ早かれ、子どもは競争社会のなかで勝つときもあれば負けるときもあるということを学びます。学校は、社会にでる準備をさせる大切な場所だと思います。すべての子が勝ち負けを経験しないで成長するなんてありえないと思います。学校だけが甲乙をつけなくしたとしても、子どもたちは彼らを取りまく環境によって甲乙をイヤでもつけられていくからです。幼いころから点数で評価されることで、子どものなかに「自分は何点？ 低い点だと、駄目な子というレッテルをはられる」と競争意識がとりこまれていっているのは事実です。だからといって、「すべてを平等に」というのは無理です。人間って、みんな違う。それこそ、十人十色。平等と競争のバランスが大事なんだと思います。極端だからおかしくなるんだと思います。

- * 走るのがあまり得意ではなかったのに、リレーや200m走はみんなの足を引っ張っているようでいつも憂鬱でイヤだった。でも、今思いかえしてみると、よかった、楽しかったと思える。また、いざ競争がない体育祭に参加すると、確かに不安は消えたものの思い出は残らなかったのだから、競争は体育祭には必要だと思う。
- * リレーなどで順位が決まることによって、「もっとがんばらない」という気持ちが生まれてくると思うので、徒競走がなくなってしまうのは少し寂しく思います。
- * 私は徒競走が大嫌いだったけど、応援で盛りあがるし、やっぱり「体育祭」といえば徒競走が見どころだと思うから、あってほしいと思う。
- * 競争することや順位をつけることは、競争心をつけさせ自分を高めるだけではなく、他者の存在を認めることができるので、必ずしも廃止すべきだとは思いません。
- * 勝ち負けがあるから「がんばろう」という気になると思う。負けることも成長につながるひとつだと思うから、廃止しない方がいいと思う。
- * うちの小学校でも、私たちが卒業してから何年かしてリレーなどがなくなってしまう。順位をつ

けることで傷つくという考えもわかるのですが、クラス対抗ではみんなが協力したり、リレーでもみんなが走者をすごく応援していました。たとえ負けたとしても、みんながんばったと褒めてくれるし、むしろ人と人の関係が強くなるような気がするので、やめなくてもいいと思います。

- * 私は、順位をつけていいと思う。人前で負けたら傷つくというのは、負けたらダメだと思いこんでいることに原因があるんじゃないだろうか。いい成績をあげたならそれを評価してあげるのは当然のことで、順位をつけないという動きは平等でもなんでもないんじゃないだろうか。平等に評価するのであれば、いい成績を残した子にはそれ相応の評価をするべきではないだろうか。表彰状がいつかなくなってしまおうかと思うと、寂しい。
- * 私も足が遅くて走るのがイヤだったが、走った後は後々引きずることはなく、いい思い出として残っている。足の速い子にとってはいい晴れ舞台になり、遅い子にとっても遅いなりに全力を尽くすということを学べるいい場だと思うので、廃止する必要はないと思う。
- * 競争だからがんばろうとすると思う。努力したり負けたりしているんな感情を体験し、成長できると思う。
- * 私は、これから子どもたちが生きていく社会は競争社会なので、子どもの時期から競争して勝つ喜びや負ける悔しさに耐える力を育てることが必要だと思う。だから、徒競走は今まで通っていた方がいいと思う。
- * 私は、順位をつけるべきだと思います。私は走りがとても遅くて、いつもビリでした。それでも、次こそは!!とあって、一生懸命走っていました。やっぱり、みんなで楽しく刺激をしあって競うことは大切だと思います。
- * 私は、反対です。小さいころから負ける悔しさや傷つくことなどを体験せずに育ったら、心身ともに強くなれない。競争がなかったら人はなかなか伸びないし、大人はちょっと過敏だと思う。
- * よくないと思う。それでは、足の速い子のことを考えてないと思う。足の遅い子もそこでふんばる力や強い心をつけるいい機会だと思うから、なくすのは反対です。
- * 社会では常に競争させられているので、運動会などで競争に慣れておくべきである。勝ったときのうれしさや、負けたときの悔しさも感じることもできる

ので、徒競走で順位をつけないようにするのはやめた方がいいと思う。

- * 子どもの成長のためにも、廃止はよくないと思う。社会にできれば、競争が激しいのは当たり前。「ビリになると傷つく。だから、やめよう」では、この先つまりまずけば立ち直れないような精神的にも弱い人間になりかねない。順位をつけるからこそもっと自分を高めようと努力するのであり、なくしてはいけないと思う。
- * 私は、順位をつけることはいいことだと思う。なぜなら、競争させることによって競技中じゃない人も応援に燃えることができるし、競争心をかりたてられて一生懸命参加し、思い出に残ると思う。勉強が苦手な子でも、運動が得意であれば体育祭なんかで評価してもらえて、自信がつくと思う。
- * みんなの前でビリになることは確かに恥ずかしいことかもしれないけど、ビリになった子はビリになった子でそこから得られるものもたくさんある。同じ競技に参加した友人からの励ましなどもそのひとつだと思う。私が参加していたころも、勉強などが苦手でも運動神経が抜群な子は、運動会の徒競走などで1番になることに誇りをもって楽しみにしていたように思う。人間には得意なことと不得意なことが必ずあるものだから、負けを形にすることは子どもによい影響も与えるのではないだろうか。
- * 徒競走は、運動会には欠かせないと思う。それに、順位なしではおもしろさに欠けると思う。私は、従来の徒競走がこれからもあってほしいと思う。一生懸命走ることに意味があるのであって、順位がすべてではない。
- * 別に悪いことではないと思います。順位がつくから本気でがんばれるし、悔しかったり、よい結果がでたりと、すべて思い出になると思います。
- * 私は、廃止しない方がいいと思います。少し甘やかしすぎではないでしょうか。走るのが遅くて傷つくなら、がんばって練習すればいいと思います。走るのが遅い子が一生懸命走っていれば、みんな応援するはず。それとも、最近の子は一生懸命走ったりしないのでしょうか。また、応援などしないのでしょうか。もしそうなら、とても悲しい世の中だと思います。徒競走は子どもの向上心を育てるのもってこいだと思うので、ぜひ復活させてほしいです。
- * 私は、競争の機会を減らすと、子どもたちの闘争心や達成感がなくなってしまうのではないかと思います。

す。努力をすることが無意味に思えてしまうような、熱い心のもてない無関心で無気力な人間になってしまうのではないかと思います。

- * 個人差があるのは当たり前だから、廃止する必要はない。順位があることで、いい緊張感やがんばる気持ちも芽生えると思う。
- * ビリの子が傷つくかどうかは、教師のフォローにかかっていると思う。それに、昔の伝統がなくなっていくのがちょっと悲しいなと思う。だから、徒競走で順位をつけないだとか廃止するというのはどうかと思う。
- * 私が小学生のころは、徒競走もクラス選抜のリレーもありました。私自身、徒競走で負けても傷つくことはなかったです。親も、とくになにもいってなかったように思います。なかには傷つき、イヤだと思っていた友だちもいたかもしれません。しかし、近年、そういった徒競走などが廃止される背景には、子どもの意見よりも親の意見が重視されていると思います。今の親は、自分の子どもにしか目がいていない気がします。実際、子どもたちが「徒競走の方がいい!! 楽しい!!」といているのをみました。
- * 私たちのときは、順位がついていたけど、別に負けたからといってたいして傷つきはしなかったです。泣いている子もいたけど、それは悔し涙で、また次がんばろうという気持ちの方が大きかったです。運動会で順位づけがなくなったら、子どもたちにはただの体育の授業といっしょで、盛りあがらないような気がします。
- * 個人的な差をつけるのはよくないことだと思うけれど、「負ける」という体験がないと「悔しい」という気持ちもわからないし、「次はがんばろう!」っていう気持ちも湧いてこないんじゃないかと思います。
- * 徒競走を廃止するということは、よくないことだと思う。個人的に差をつけることはよくないことかもしれないが、負けることによって次はがんばりたい、体力をつけよう、練習しようなどと前向きに考えるようになるだろう。また、走ることは苦手でも他のことで1位になれたときには、うれしさも倍になるし、自分の得意や不得意がわかり、いいのではないかと思います。
- * 競技には勝ち負けが必ずあるもので、勝負があるからこそ子どもたちは力をだして1位になろうとがんばるのだと思う。だからこそ、おもしろいのだ。

「差」とみることそのものが間違っていると思う。差を意識しすぎると、反対にみんなに対して不平等になるのではないだろうか。走りたい子の気持ちは、無視されてしまうだろう。走るのが遅い子も遅いなりにがんばることが大切だし、負けることから逃げてはいけないと思う。まわりの人は、がんばったことを誉めてあげるべきだ。私は、徒競走は運動会にはなくてはならない競技だと思う。

- * 順位をつけることによって、負けても「次はがんばろう」という向上心ややる気がでてくると思う。世の中、傷つくことは順位をつけなくたってたくさんあると思うし、そういうことにも慣れておいた方がいい。それに、傷つく原因は、負けたことよりも負けた後に周囲の人間が放つ悪口にあると思う。
- * 個人的な差をつけるのはよくないだとか、負けると子どもが傷つくなどといわれると、勉強面の話とかぶってきます。運動という面で傷つく子もいるが、勉強面など他の面でも傷つく子はいると思います。運動会以外の場でも同じようなことが起こりうるのに、運動会だけ廃止にするというのはどうでしょうか。
- * 勝ち負けを決めることは、間違っていないと思う。学校は平等化を進めることに必死だけれど、こういう平等は間違っている。なぜなら、社会にできれば不平等は当たり前だから。食べもの屋でいうならば、おいしい店には客は入るけれど、まずい店には客は入らない。こういう競争は、どこでも起こりうる。平等とは、男女の差別をなくしたり、障害者に対する偏見をなくしたりすることであって、競争性をなくしてしまうこととは違うと思う。そのなかで生き残っていくためには、努力したり自分だけの特技をみつけたりする体験の場が必要である。そういう場が学校であって、運動会もその可能性を見つけるための場所だと思う。運動会の競争性をなくしてしまえば、子どもたちはなにが自分の特技なのかかわからなくなるのではないか。だいたい子どもが傷つくといっても、傷つかないで成長する人がいったいどれほどいるというのだろう。たくさん傷ついても次へ立ち向かっていける力を養うには、負けることも必要である。負けない嘘だらけの平等のなかを漂う子どもは、ますますひ弱になるのではないかと思う。
- * 遅い子だけが傷ついているとはかぎらない。順位ではなくて、速くて損だと思っている子もいると思う。負ける子が傷つくという話題がでると、今度は

負かすことで傷つく子どもでると思う。傷つくことそのものは悪いもんじゃないと思う。傷つかずに生きていくなんて無理だから、乗りこえる方法を身につけるためにはいいんじゃないか。順位をつけることのすべてが人間関係に反映するほど、子どもは考えなしではないと思う。そのように考えるのは、大人も子どもが信じられなくなっているんじゃないかな。私は、競走があつていいと思う。

- * 私は、徒競走で順位をつけなかったり廃止するという動きをいいと思いません。順位がつけられないと得意な分野であっても認められる機会がなくなって自信がもてなくなると思うし、個性を伸ばす教育をするといいながらぜんぜん個性を認められない教育になっていると思います。徒競走を廃止にしたからといって、みんなのみている前で個人的な差がつかないというわけではないと思います。目にみえる差だから徒競走を廃止しようということになったのでしょ。ビリになったからといって他の面もダメというわけじゃないし、自分の得意な部分でがんばればそれは解消できるのではないかと思います。たとえば、走るのは苦手だけど理科は得意だからこっちでがんばろうという気持ちになるんじゃないかと私は思います。だから、私は徒競走を廃止しなくていいと思います。
- * 大人になったらイヤでも順位をつけられる機会は増えるのだから、体育祭で順位を決めないのはただ子どもを甘やかしているだけではないだろうか。たとえビリでも次回はという向上心が湧いてくるはずだ。順位は厳しい現実だが、それに負けない大人になるためにも必要な体験のはずだ。廃止してしまうのは、少し違う気がする。「負け」を知るのも、人生の勉強になる。
- * 確かに徒競走などでビリになってしまうとイヤな気持ちになってしまうが、今度の競争ではがんばって1位になろう！という気持ちが大事だと思う。
- * 私はどちらかといえば運動が苦手で、徒競走は毎年といっていいほどいつも真ん中の中途半端な順位だった。それでも、「負けたくない」と自分なりに精一杯走り抜いていたし、終わった後「やり遂げた」という思いで満足していた。人生には争うことがつきものだし、勝ち負けの差がつくのは仕方ないと思う。勝敗にかかわらず、自分がどれだけ努力したかの方がよっぽど大事だ。それに、徒競走で差をなくすために「平等」の順位にしてしまっただけでは、走りヒーローになれる子どもたちに、かえって「不平

等」を押しつけることにはならないだろうか。

- * 「人に順位をつける」という面だけみればいけない気がするが、運動会で1位2位がなければどうなるだろう。なにかもの足りない気がする。走るのが苦手な子は、順位に関係なく中身でがんばって楽しくしたらいいと思う。たとえビリでも、自分はがんばって走ったと思えることが大事だ。先生や家族も「がんばったね！」と一言かけてあげれば、苦にはならないと思う。
- * 足の速い子は、自分の活躍する場があつてうれしいと思うだろう。遅い子は、順位をつけられるのはイヤかもしれない。しかし、そのなかから次はひとつでも上位を目指そうと、努力することを学べると思う。したがって、徒競走や順位をつけることは悪いことではないと思う。
- * 私は、徒競走を廃止するのはよくないと思います。私は普段から勉強の面で目立つような子じゃなかったけど、陸上部ということもあつて走ることは大好きなので、一年に一度の体育祭がどれだけ楽しみだったことか…。1位になったときの喜びを奪うのはよくないと思います。私みたいな子にとっては、徒競走は欠かせないものだと思います。
- * 私は、大反対です。負けても次は勝とうと努力すればいいし、負けても傷ついたり恥ずかしがったりしなくていいと思う。そういう経験は大切で、それが少ないから、どんどん心の弱い子が増えてるんだと思います。
- * 何歳になつてもどこにいても、社会では常に人と比較される。だから、個人的な差をつけるのはよくないという考えはおかしいと思う。それに、走るのが速い子にとつたら1位というのはすごくうれしいことだ。また、走ることがより一層好きになり、その子自身の走るという能力を伸ばすこともできると思うから、今まで通り順位をつけるべきだと思う。
- * 正直いって、私自身個人的な差がつくことによって体育祭を楽しんでいた部分もある。それは、この伝統的な行事を通して、たくさんものを得たからだ。ライバルができ、競争心が芽生える。競いあうことで、闘争心に火がつく。そのなかで、お互いを信じあえる友情が生まれる。負けることの悔しさを知り、リベンジに燃える！ こんな感情をむきだしにした、体と体の、気持ちと気持ちのおつけあえる、年に一回のチャンスを無駄にしてはいけないと思います。
- * 徒競走で順位をつけることは、悪いことじゃないと

思います。ビリやブービーになった子が傷つくというけど、悔しい思いをした分、がんばろうと思う向上心は大切だと思うし、競争がなければ運動会は盛りあがらないと思うので、徒競走はなくしてほしくないです。

- * 私は、徒競走を廃止するのは反対です。なぜなら、運動会の思い出で楽しかったのはリレーだったし、普段の生活で体を動かして競いあうことってあんまりないし、ときには友だち同士仲よくても競いあうのはいいと思います。お互いを意識しあつて、よい刺激になると思います。
- * 私は、順位をつけたり徒競走をしてもいいと思う。みんなが同じということはありませんし、いい意味で勝負をすることは大事だと思う。
- * 徒競走で順位をつけなくて、なにがおもしろいかわからない。順位をつけなくらいなら、やらない方がいいと思う。
- * 学校行事には、運動会だけではなく文化祭や音楽祭などもあり、それぞれが生徒の特技を発揮できる場である。苦手なことをやらないで避けるのではなく、苦手なことにも挑戦して、一生懸命やることに意味があるということを生徒に伝える必要があると思う。
- * 足の遅い子の気持ちはわかりますが、徒競走で順位をつけてもよいと思います。体育祭は、1番になる喜びや負ける悔しさなど、いろいろな経験ができる場所だと思います。確かに足が遅いということで傷ついてしまう子もいると思いますが、悔しさを生かしてがんばるといことが大切だと思います。
- * 傷つく子を基準にして守っているばかりで、なにが得られるのかと思う。負けたくないから速く走れるように特訓することもあるだろうし、大袈裟だが挫折を知ることにもなるではないか。私は速くも遅くもなかったが、傷ついた覚えはない。速く走れるよう、休み時間にみんなでリレーの練習をしていた。それに、勉強ができなくても運動神経のよい子にはせつかくの見せ場だということに、一部の子どもが傷つくというだけで廃止するのはかなりおかしいと思う。
- * 私は、この動きに反対です。なにごとにも順位はあるものだし、運動会はスポーツマンシップにのつっているのに、順位をつけないということに納得いきません。小さい子が負けて傷つくことはかわいそうだと思うかもしれないけれど、そのなかから生まれてくる対抗心や負けたときの悔しさなどを教える

ことも大切だと思います。

- * だれにでも得意不得意はあると思うし、苦手だから、傷つくからといって、その現実から目をそむけさすようなことはしない方がいいと思います。
- * 廃止には、反対です。足の速い子にハンディを与えて遅い子が同じようなタイムで走れるようにといった配慮がなされているようですが、私にいわせれば、そのような「特別扱い」をされる方が子どもにとってつらいという気がします。「私・僕は、こんな特別扱いをされないと、みんなと同じようには走れないんだなあ…」と、ショックを受けてしまうのではないかと感じました。子ども自身に訊いたアンケートでは、「かけっこがしたい!! 楽しいよ!!」とみんなっていました。個性を活かすための「かけっこ」が、かえって「優劣の差を生みだしてしまうので廃止」という答えをだしてしまう学校側の考えには、納得いきません。確かに足の速い遅いで優劣の差がでてきますが、足の速い子はかけっこで、足の遅い子は他の面で個性を活かしてあげればいいと思います。足の遅い子が、足の速い子といっしょに走ることで負けん気がでて、速く走れるようになるかもしれない。もっともっと速く走れるようになりたい…と思って速くなるかもしれない。学校とは、そもそも生徒個人の個性を活かしてあげる、個性を引きだしてあげる場なのではないでしょうか？
- * 個人的な差をつけるためにしているわけじゃないし、悔しさを覚えるのも必要だと思います。
- * 単純に寂しいです。偏見かもしれませんが、定番のアノ曲で歓声とともに思いっきり走っている姿をみるのが運動会だと思います。
- * 私は運動が苦手なので順位をつけない方がいいのですが、運動に自信がある人もいるので、廃止するのは反対です。
- * 順位はおおいにつけたらいいと思う。私は、運動神経がさしてよくなかった。球技ならまだしも、リレーがメインとなる体育祭は気が重くて仕方がなかった。軽やかにグラウンドを駆ける友人を羨望の眼差しでみつめた。でも、その友人は私ほどにはテニスができなかった。同じテニス部だったが、私の方が勝っていた。人には、向き不向きがある。速く走れないからなんだというのか。それがすべてじゃない。だからこそ、お互いに認めあわないといけない。できる子は誉めてあげたいし、誉められた子は自信がつき、さらなる発展を目指す。なにを誉めるかの違いだけじゃないかと思う。徒競走だけに視野

を向ける大人の考え方が浅い気がする。もっともっとまわりを見渡せば、子どもの素晴らしいところは徒競走以外にもあふれている。

- * 個人個人に差があることを悪く捉える考え方をどうにかした方がよいと思う。勝った負けたと、みるところはそこだけなのかと聞きたくなる。運動能力は生まれつきかもしれないが、クラスの仲間が1番をとったことを喜ぶこと、最後までがんばって走りきったことに拍手すること、そういう気持ちを身につけさせることを考えてほしい。自分より相手が大事だと思える気持ちがないから、自分のことしか考えていないから、差を悪く感じるのだ。順位の差がつくからなどの理由で、徒競走をなくすのはバカげている。
 - * 私はあまり足が速くなかったので、もし自分が小学生のときに徒競走の順位をつけないといわれれば、ひそかに喜んだだろう。でも、運動会そのものはそれまでよりも楽しめなくなっただろうと思う。紅白対抗で自分たちのチームが勝つと、お祝いの意味をこめてその日の宿題をなしにしてくれる先生がいて、それがすごくうれしかった。つまり、矛盾しているが、自分自身には順位をつけてほしくないが、それでも勝ち負けあってこそ燃えるのが運動会というのが私の考えだ。やはり、子どもでも、最後にひとり遅れてゴールするのはあまりみられたくないだろう。でも、自分の小学校時代をふりかえてみると（これは、私の足の遅さがそんなに深刻でなかったからかもしれないが）、運動会での競技の結果や総合の勝ち負けというものはその日かぎりの喜びや落胆であって、次の日まで引きずることはなかったように思う。子どもたちのなかには、徒競走がなによりの活躍の場である子もいるだろう。そういった子どものためにも、徒競走の順位はつけるべきだ。
 - * 差が明らかになるからおもしろいのではないだろうか。私は、運動会の前になると影で必死に練習していた。競争がなければその努力も必要ないわけだし、勝ったときの喜びは感じられないだろう。
 - * 私は走るの苦手だったけど、順位がつくからがんばらなきゃって、むしろ闘争心を燃やしていた方です。なんか、負けたら子どもが傷つくとかいっていたら、キリがないと思います。
- 2. 条件つき反対**
- * 私は、順位をつけられるのはイヤです。体を動かすのが好きな子どもは、順位を維持しようと努力をす

るでしょう。体を動かすのが苦手な子どもも、たとえ最後になっても、一生懸命ひとつのことにとりくむことに意義があるでしょう。ビリだからダメだと決めつけたりしなければ、問題はないと思います。教師は、だれでも得意不得意があるのだということを子どもに説明し、親に対してもこのことに注意を払うように促すといいのではないのでしょうか。

- * 廃止しない方がよいと思います。どんな子にも得意不得意があるし、それは運動でも勉強でも同じです。徒競走は、同じタイムの子をいっしょに走らせるといった工夫はした方がよいけれど、順位づけは悪いとは思いません。
- * 走るのが苦手な私は、順位をつけることがいいとは思えない。走りが速い人たちは、みんなにみられていても早くゴールできるのだから問題ないけれど、遅い人にとっては恥ずかしいだけだと思う。ただし、同じ速さの人同士で競うならまったく問題はないと思う。
- * 確かに、足が速い子と遅い子がいっしょに走ったとき、差が歴然としてしまい、遅い子はおもしろくないだろうと思います。でも、タイムが同じくらいの子同士を走らせれば、差がでないと思います。
- * 私自身は傷ついたことはありませんでしたが、改めて考えてみると、確かに傷つくこともあるのではないかと思います。しかし、徒競走などは順位をつけてこそのおもしろさや楽しさもあるので、順位をつけるのをやめるといのはあまりよくないのではないかと思います。もっと工夫して、なんとかできるように考えるべきではないかと思います。
- * それぞれの種目に順位をつけること自体はいいと思うが、体育祭全体が結果を重視するような構成になってはいけないと思う。まったく順位をつけなくなると、本気でとりくむ生徒は少なくなってしまうと思うので、順位をつけることは必要だと思うが、結果よりも過程が重要だということを理解させることがなにより大事だと思う。
- * 順位があるから負けたくないという気持ちになったりがんばろうとするけど、走りが苦手な子は苦痛を感じたりするので、タイムが同じような子をいっしょに走らせてあげたらいいと思う。順位があるから楽しいし、燃えると思う。
- * なにをしても人が団体でいる以上、順位や順番というのはいってくる。ただ、1番はできる人、ビリはダメな人とレッテルを貼るような見方がダメだと思う。それだけで価値が決まるのではなく、さまざまな

学校が工夫しているように、スピードの近い子を走らせたりすれば、徒競走自体は悪いものではないと思う。

- * 足の速さによって組をわけて徒競走をするのに、私は賛成です。勉強が苦手な運動会で能力を発揮できる子もいます。「負けると傷つく」といっても、中学や高校になるとイヤでもテストの席次がつけられるし、世の中にでは負けたり勝ったりする仕事もあります。自分に得意な部分や不得意な部分があることを自分自身で認めなければ、世の中にでてからいろんな出来事に対応できない人間になってしまおうと思います。
- * 確かに、小学生くらいから順位をつけられたりするとビリになった子は傷ついてしまうと思うから、小学生はみんなで楽しめる競技をやって、楽しさを教えた方がいいと思います。中学生くらいになれば、心も体も成長する時期でもあり、競いあうことも大事になるので、徒競走は廃止しなくてもいいと思います。
- * みんなのみている前で個人的な差をつけられた子どもは、羞恥心を抱いたり、「自分はできない子だ」と思い、自信をなくしてしまうこともあると思う。だからといって、徒競走をなくしてしまっただけでは、なんの解決にもならないと思う。順位をつけなかったり、同じタイムの子を集めて走らせるなどの工夫をしながらやっていくべきである。
- * 私は運動音痴で、体育祭は大嫌いだった。それは、強制的に1人1種目はでなさい!!と決められていて、しかも運動神経に関係のない種目が棒引きや障害物競走くらいと少なく、楽しめなかったからだ。でも、みるのは好きで楽しんでた。でたい人が種目にてたらしいし、運動のできるできないが関係ない種目をもっと増やせば、私のように鈍い人でも楽しめるのではと思う。傷つくからといって廃止にする必要はないと思う。
- * 廃止にすれば活気はなくなるとはいますが、不得意な子にとっては、まわりの子どもから「おまえのせいで負けた。のろい」など、ストレートにいわれて傷つく心配はなくなります。廃止までする必要はないでしょうが、もう少しやり方を検討すべきだと思います。

3. 賛成

- * 別にいいんじゃないですか？ それはそれで正論だと思いますよ。むしろ、もっと早く私の時代からや

っていてほしかった。

- * 傷つく子は確かにいるし、そういう子を思ってそのような動きがあるのだし、別に徒競走を廃止してもいいと思う。
- * 廃止する考えに賛成です。できれば、私が小学校のころからこのように考えてほしかったです。私自身走るのが遅かったから。
- * 私自身足が遅い人間なので、この意見には賛成だ。徒競走を減らして団体競技を増やせばいいと思う。あるいは、徒競走はしても成績を団体成績に加算するのを中止すべきだ。
- * 体育祭や文化祭、合唱コンクールなど、いわゆる学校行事というものは、昔から大嫌いです。いつもなんとか理由をつけて休んだり、高校のころは先生公認で行事はすべて欠席しました。まわりから「みんなでなにかやりとげたら、すごく感動するよ」とか「思い出に残るよ」とかいわれたけど、私はみんなでなにかをするというのが異常に苦手なので、思い出とかいう前に参加自体が苦痛なのです。かなり昔の話ですが、私にとって体育祭は、団体のだしものがある上に競争まであり、その苦痛はものすごいものでした。団体では、「どうしてもっと楽しそうにしないの?」と先生に怒られ、さらに競争に負けると、お前は駄目だと名指していわれているような気がしました。人生において競争は必要だとは思いますが、自分に置き換えて考えると、自分のところに徒競走がなかったら少しは違っていたのかなと思います。なので、徒競走廃止には賛成です。
- * 実は、つい最近まで徒競走というものを知らなかった。エスカレーター式の学校に通っていたわけではなく、高校まですべて公立だが、幼稚園から高校までの運動会・体育祭に徒競走という種目がなかった。地域的なものなのだろうか（ちなみに、地元は岐阜県高山市です）。徒競走はなくても、十分楽しい。リレーで十分だと思う。徒競走は、時間がかかりそうだし…。「その方面で個性のある子は…」という声があるみたいだが、徒競走がなくても個性は発揮できると私は断言したい。私自身、中高陸上部に所属していたし、運動にはけっこう自信があった。それでも、別に不満なんてなかったし、楽しい行事だったので、私は徒競走の必要性はハッキリいってゼロだと思う。

4. どちらともいえない

- * 私は、この考えに賛成とも反対ともいえない。私

は、徒競走が楽しかった（たとえ2番や3番になっても）。悔しい気持ちはあったけれど、劣等感などなかった。ただ、走ることが好きな私だったからそう思ったのかもしれない。現在では、負けると子どもが傷つくという理由で順位をつけない学校があると聞いている。それも一理あるかもしれない。走るのが嫌いで、負けるのがイヤという子どもにとって、順位をつけられるのは確かにイヤだろう。とはいえ、その子どもたちが不快に感じないようにしてあげることがよいのかというと、私は疑問に思う。

- * よいことでもあるし、悪いことでもあると思う。人はみな、一人ひとり違うのが当たり前。ビリで悔しい思いをしたなら、次ががんばればいい。私は中高6年間ずっと走ってきて、中2、中3はトップで、高2はビリだった。でも、走ることが好きだから高3でも走った。イヤだからといって逃げているのは、自分と向きあえていないからではないかと私は思う。
- * 勉強が苦手でも走るのが速い子にとって、徒競走で1番になることはとてもうれしいことだと思う。でも、走るのも勉強も苦手な子には、すごくイヤなことだと思うし…。
- * 私は足が遅かったから、もし参加する側なら、リレーがなくても反対しないかもしれない。でも、それは傷つくからじゃない。実際にリレーのなくなった運動会に参加したら、つまらないって感じるかもしれない。
- * 確かに、順位をつけると最後の子が傷ついたりするかもしれないけど、順位をつけることで1番になりたいという欲がでて、がんばることもあると思う。それに、順位をつけなくても、子どもは心のなかでは、「自分が1番速かった」とか「自分が1番遅かった」とか思っていると思うので、順位をつけてもつけなくてもいっしょだと思う。

5. やりたい人だけで

- * やりたい人だけ参加したらいいと思う。
- * ビリやブービーは、確かにイヤだ。だが、もっとイヤなのは、そのことをからかわれたり、過剰に慰められたりすることだ。走るのが好きな人、踊るのが好きな人、争うのが好きな人と、人にはいろいろなことは小学生だってわかっているのだから、子どもに種目を選ばせたり、やりたいことをさせるのが大事だ。だが、無関心な人には、先生がやらせないといけないこともあると思う。やってはいけないの

は、大人が子どもの選択の場を狭めることだ。

*私はビリになる人間だったから、徒競走が大嫌いでした。なんで大勢の前で恥をかかなくてはいけいいのかといつも思っていました。やりたい人だけやればいいと思います。やりたくない人にまで強制するのをやめるなら、徒競走自体を廃止する必要はとくにないと思います。そのときぐらいしか目立てない子の楽しみを奪うのもどうかと思います。

Ⅲ. おわりに代えて

なにかをするにしましなないにしまし、それぞれにいいところと悪いところがある。そんななかで、なに

を選べばいいのか。教育には、常にジレンマがつきまとう。答えをだすのは難しい。どんな運動会がいいのか。この問いかけは続く。

注

- 1) アンケート調査は、甲南女子大学の他、鳥根県立大学と鳥根大学で2003年8月に実施した。
- 2) 調査した3大学の自由記述のうち、鳥根大学分は、「[[競争のない運動会]]を考えるために」『武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科研究誌(10周年記念特別号)』(第11号, 2004年)に収録。鳥根県立大学分は、會田宏・鳥田博司編『ゼミチュー〜2004年度ゼミ学習成果記録集』(六甲出版販売, 近刊)に収録予定。